

## 「湖都と古都をつなぐ」

滋賀銀行 常務取締役 西 基宏



大津市の取水口から取り入れられた湖水は、悠久の歴史を刻む水路を、静かにそして力強く古都・京都に向かって流れています。琵琶湖疏水は、東京遷都に伴う人口減少により衰退した京都の活力を取り戻すため、第3代京都府知事の北垣国道氏が建設を計画。疏水をかんがい、上水道、水運や水車の動力として利用することで産業の振興を目指しました。

第1疏水は1885年に着工され90年に完成。田邊朔郎氏ら米国視察団のアイデアを取り入れ、日本初の営業用水力発電所となる蹴上発電所も建設されました。その電力を用いて95年、京都・伏見間に日本初の電気鉄道(京都電気鉄道:のちの京都市電)が市街を走りました。

第2疏水は1908年に着工され12年に完成。日本初の急速ろ過式の蹴上浄水場が設置されるなど、京都の近代化の一躍を担う大事業となりました。さらに、これらの疏水を掘り進める際に生じた土砂は、

琵琶湖の埋め立てにも用いられ、琵琶湖沿岸の開発事業に大いに役立てられたのであります。

現在では、大津市の第1トンネル東口、京都市の山科疏水、蹴上インクライン<sup>※</sup>や南禅寺水路閣などの疏水沿いには、四季折々の豊かな自然に魅せられて多くの観光客が訪れています。また京都市からは、湖水利用の感謝金として年間2億3千万円が滋賀県に支払われ、山々の植林・間伐・林道整備など水源地保護事業に活用されています。

弊行は、創立間もない1938年に京都支店を開設し、京都府内に15店舗を有するなど、早くから京都府を「地元」と位置づけた活動を展開しています。そして、本年6月、さらなる強化を目指し京都支店内に「京都戦略室」を立ち上げました。琵琶湖疏水へ思いをはせながら、金融の流れで湖都と古都をつなぎ、京都の皆さまのお役に立てるよう努めてまいります。

※蹴上インクライン／京都市東山区蹴上にある傾斜地にレールを敷き貨物を運搬する舟を台車で運ぶ鉄道跡。

### しがぎん TOPICS

## 「しがぎん地方創生セミナー2016」を開催

当行は7月26日、地方自治体職員を対象とした「しがぎん地方創生セミナー2016」を開催しました。地方創生は、地方版総合戦略の策定から本格的な事業展開の段階に入っています。本セミナーでは、国が地方に求める「地域再生計画」に必要な先駆的な取り組み(官民協働、地域間連携等)を後押しすべく、「地方創生事業マッチング」を初めて企画しました。

第1部では、株式会社三菱総合研究所の政策・公共部門 副部門長の平石和昭氏が、「地方創生の攻めと守り」と題し、全国の取り組み事例を紹介。「住民」が主役のまちづくり論をキーコンセプトに持論を展開しました。

第2部では、経済産業省近畿経済産業局の安藤誠氏が地域経済分析システム(RESAS)の活用方法を紹介。RESASを用いて作成した滋賀県の産業分析結果を元に、どのように政策立案へ役立てていけば良いかを説明しました。

第3部では、「地方創生事業マッチング」相談会を実施。地方創生に資する民間事業者11名を自治体に紹介し、その後、空き家の活用やクラウドファンディングの活用等について意見交換が行われました。

当日は、滋賀県内の20自治体ならびに京都市の職員ら111名が参加。「第3部のマッチングが非常に良かった。発展的に継続してほしい」との声をいただきました。

当行は、「地方創生への挑戦」を第6次中期経営計画に掲げ、地元の自治体との連携をより一層強化し、地方創生の深化に向けて取り組んでまいります。



第3部では、参加者が抱えている課題やマッチングしたい内容を民間事業者に相談